

# 半導体漫遊記

204

## 湯之上隆

2018年12月1日 中国ファーウェイの  
孟晩舟・副会長兼CEOが、米国の要請によりカナダのバンクーバーで逮捕されて以降、米国によるファーウェイへの攻撃が激しさを増している。そして、とうとう米国司法省は1月28日、ファーウェイと孟副会長をイランとの違法な金融取引に  
関わった罪および米通信会社から企業秘密を盗んだ罪で起訴した。

そのような中、ファーウェイは1月24日、次世代通信5G対応の最先端半導体「Balong 5000」を

独自開発したと発表した。「Balong 5000」は、現行規

格の4Gに比べて10倍の通信速度を実現。これは、競合する米クアルコムが開発した半導体の2倍の速度である。またクアルコムの半導体が5G専用であるのに対し、「Bal

ong 5000」は、これは正しくない。というのは、ファーウェイでは傘下のファーレスのハイシリコンがスマホ用プロセッサと通信半導体を設計している。そして、これら半導体を製造している

のは、台湾のフアンドリ。このように、ファーウェイの排除を決めた台湾に存在するTSMCが、ファーウェイの

可能性が高い。TSMCがファーウェイのプロセッサの受託生産を続けられるかどうかという問題は、日本のエレクトロニクス企業にとって対岸の火事ではない。という

のは、ファーウェイ製のスマホにはソニーのCMOSセンサー、ジャパニクス製の電子部品が数多く使われているからだ。ファーウェイと取引のある日本企業は、2018年に80社を超え、その規模は6800億円に達するという(飯田耕司、Sankei Biz、2018年12月18日)。

TSMCや日本のエレクトロニクス企業など、ファーウェイのサプライヤーに対して、米国のどのような圧力をかけてくるのか? 米国の出方次第では、ビッグビジネスが消滅する可能性がある。米国の拳動に目が離せない。(微細加工研究所・所長)

# 5G半導体の製造 ファーウェイ可能か

## 台湾が中国の通信機器を排除へ

の計画は本当に実現するだろうか?

まずファーウェイは「自社のスマホに搭載する自社の半導体の比率は現在約5割である」と言っているが

は、台湾のフアンドリ。このように、ファーウェイの排除を決めた台湾に存在するTSMCが、ファーウェイの

可能性が高い。TSMCがファーウェイのプロセッサの受託生産を続けられるかどうかという問題は、日本のエレクトロニクス企業にとって対岸の火事ではない。という

のは、ファーウェイ製のスマホにはソニーのCMOSセンサー、ジャパニクス製の電子部品が数多く使われているからだ。ファーウェイと取引のある日本企業は、2018年に80社を超え、その規模は6800億円に達するという(飯田耕司、Sankei Biz、2018年12月18日)。

TSMCや日本のエレクトロニクス企業など、ファーウェイのサプライヤーに対して、米国のどのような圧力をかけてくるのか? 米国の出方次第では、ビッグビジネスが消滅する可能性がある。米国の拳動に目が離せない。(微細加工研究所・所長)



「Balong 5000」を

の計画は本当に実現するだろうか?

まずファーウェイは「自社のスマホに搭載する自社の半導体の比率は現在約5割である」と言っているが

は、台湾のフアンドリ。このように、ファーウェイの排除を決めた台湾に存在するTSMCが、ファーウェイの

可能性が高い。TSMCがファーウェイのプロセッサの受託生産を続けられるかどうかという問題は、日本のエレクトロニクス企業にとって対岸の火事ではない。という

のは、ファーウェイ製のスマホにはソニーのCMOSセンサー、ジャパニクス製の電子部品が数多く使われているからだ。ファーウェイと取引のある日本企業は、2018年に80社を超え、その規模は6800億円に達するという(飯田耕司、Sankei Biz、2018年12月18日)。

ファーウェイが開発した5G用半導体「Balong 5000」(出所:ファーウェイのHP)